

森林塾通信

発行 KOA 森林塾
 (事務局)
 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

第1回森林塾報告

テーマ「植林」

『白根三山を眺めながら晴天の下』

一昨年はしよほ降る春雨の中、昨年は40度近い傾斜地で



来し方を振り返ると、おお！結構きれいに植えてあるじゃないか

しかも土砂降り、合羽は泥まみれで合羽の中は汗まみれでした。今年も天気予報では雨マーク、なかば諦めてビニールシートも大きめなものを用意するなどして対策をしていました。ところがところがうれしい誤算。五分咲きの高遠

コヒガンザクラを散らす落花狼藉の風雨は朝までに上がり、薄日の当たる風穏やかな一日となりました。夕方過ぎからまた一雨来たことを考えるとまさに「間隙を縫って」という状態だったのでしょう。今年初めて来てくれたど

なたかがそんな神様を連れてきてくれたのかもかもしれません。(去年、一昨年と手伝ってくれて、今年は都合が悪かった。さんがやっぱり雨男だったのだという噂も流れた、ひよっとするとこれにSさんとIさんとKさんを加えた一団の仕業だったのかもしれない)寒くもなくもちらん暑くもなく、傾斜もそれ程無く、雪の残る白根三山北岳、間ノ



奥田、佐野ベア、根市、松下ベア、金子、高草木ベア



河原・藤本ベアをはじめ、ちょっと風変わりなベアが多数出現した

岳、農鳥岳を眺めながらのヒノキの植林はまるで天国のようでした。

昨年に引き続き、伊那市西春近財産区有林をお借りしてヒノキの植林を行いました。近くて当度な面積でという植林予定地がなかなか見つからない昨今ですが、たまたまここは昨年6月末の集中豪雨で土砂が流出して埋まってしまった15アルほどの造林地で、500本弱のヒノキの苗の植林が2時間ほどで終わりました。50年、60年経ったときにさてここ、休み平キヤ



緑をバックにいい雰囲気、鈴木さん夫妻、婦唱夫随かな？

ンプ場」はどうなっているのか、ヒノキは元気に育っているのか。いつの日か伊那へおいでの折り、また寄ってみて下さい。さてお昼は豚汁と財産区から差し入れのビール。ごつつあんです、やっぱり今年も天国だあ！一〇〇人分用意した豚汁もペロりですっかりいい気持ちになりました。

いをもって参加して下さったことを改めて実感しました。太田さんは大阪府岬町から、神田さんは千葉県柏市、田中さんは新潟県長岡市、他にも多くの方が遠くから来てくれました。ありがとうございました。一年近い長丁場になります。無理のない範囲で出来るだけたくさん、伊那に来て下さいます。ご期待に添えるかどうか自信はないのですが、ともかく、よろしく願います。



白根三山をバックに保科先生の植林指導、木に対する気遣いがちょっとしたノウハウから伝わってくる

今回の内容
第1回 4月22日(土)
植林

8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合 高遠のお花見のまつ盛りつで相当な渋滞だった模様ですが、殆どの皆さんはかなりの余裕をもって到着されたようです。遅刻は数人でした。保科先生、鳥崎先生のあいさつの後、

9時40分 伊那市西春近「休み平キャンプ場」の西春近財産区有林に到着 財産区の委員長さんと上伊那森林組合理事の三沢さんのあいさつ、インストラクター藤原によるストレッチ体操の後、保科、鳥崎両先生による植林の指導。

10時15分 一部枝片づけとあわせ、2人1組で植林開始。1チーム20本くらいの見当でしたので簡単に終わるかと思ったの



ずっと講師をお願いして7年目、保科先生と鳥崎先生、今年はどうな「掛け合い漫才」が飛び出すか

ですがなにせ土砂流出地、転石や埋木などで穴掘りが大変なところもありましたが、「山のことなんだから少しくらい横に動いてもいいじゃないか」との保科先生のアドバイスも余り届かなかったよううで植え終わったヒノキの苗の大方はきれいな直線を描いていました。

12時10分 植林終了。昼食

13時 森林塾オリエンテーション、続いて自己紹介開始。

14時30分 風がでてきて冷えてきたので、インストラクターの自己紹介が終わったところで、小屋に戻る

16時 先生方の自己紹介とお話が終わったところで解散。



山小屋いっぱいの人が集まってくれました。総勢65人でした。

参加者/池田さん、池野谷さん、稲垣(久)さん、稲垣(裕)

宇津さん、梅木さん、太田さん、岡田さん、小沢さん、片岡さん夫妻、河尻さん、神田さん、具呂さん、坂田さん、坂本さん、佐藤さん、塩田さん、杉野さん、鈴木さん夫妻、須藤さん、田中さん、長島さん、中村さん、芳賀さん、松下さん、皆川さん、森さん、山口さん、横井さん、一瀬さん、小川さん、奥田さん、奥本さん、小澤さん、粕谷さん、金子さん、河原さん、佐野さん、鈴木さん、高草木さん、根市さん、藤村さん、藤本さん、本城さん、村谷さん、山口さん、大竹さん、大野さん、竹内さん、浜田さん夫妻

講師/保科先生、鳥崎先生
スタッフ/川島、川原、後藤、佐藤、中村、藤原、宮崎、坪木、田中、早川 計65名

次回以降の予定
第2回 5月13日(土)
樹木分類

8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。木の名前や特徴を一つでも覚えましょう。山歩きのできる格好で。植物図鑑等あれば持参ください。小雨決行、お弁当持参。

今回の復習&豆知識

「密度の管理」
今回植えられたヒノキ(3年もの、1ha当たり3000本)が今後どうなるのか、一般的な方法で密度の管理を行ったとして予想してみました。

地位指数は中(特に肥えていないし痩せてもいない山林)
混ませず、空かせ過ぎずに管理する(混みすぎてきた分だけの間伐)

樹高、直径は平均の数値7~8年は下草刈りが主な仕事になります。ときに蔓切りなども必要でしょう。17年後ヒノキたちは20才になります。鹿に食べられるか、下草刈りで切られたもの以外はそのままのまです。樹高は8m強。27年後、30才になりました。樹高は11m、直径は15cm弱ですが中には柱が取れるものがでてきます。少し前か



小屋に戻って先生方のご挨拶

ら、枝打ちや間伐も始まり、本数は2000本/haまで減っています。今回植えたもののうちで残っているのは3分の2です。37年後、40才のヒノキ林。本数は1400/haほど。樹高は13m、直径は18cmになり間伐されたものは柱や板に利用されるようになります。

さて半世紀以上が過ぎヒノキたちももう還暦。本数800本/ha、樹高は17mです。直径は25cmになりましたがすべてを収穫するにはまだもう少し大きくなってもらいたい。本数をさらに600本/haほどに減らして一〇〇才まで置いておくとするか。同期のヒノキの5分の1しか残っていない。あの区画では一〇〇本が残るのみとなりまして。でも残っているのは見事な、立派なヒノキです。

鳥崎先生の「山造り承ります」を参照下さい。森林塾では教科書として使いますので未だお持ちでない方はお早めに手配下さい。

今年の森林塾について

説明、お願いなど

森林塾へのご参加ありがとうございます。昨年に引き続きで大盛況で、タツチの差で遅れてしまった方以降、20人以上の方に入塾をご容赦いただいています。塾の性質上、特にチエーンソーなどを使う実践への無条件の受入は出来ませんし、また出来るだけ多くの方に参加してもらいたいとも思います。そこで今年から

お友達などのお試し飛び入りは、とくに造林、収穫に限っては容赦してもらおう。森林塾は二年間で卒業とする(造林、収穫)。などを考えています。これらについてご意見を聞かせていただければ幸いです。

鳥崎先生のお話にもありました

先生のお話にもありました。森林塾の前日、当日は小屋を開放して下さっています。とくに遠くから車でお見えの方、事故などの心配もありませんので、ご都合にあわせて気兼ねなくご利用下さい。注意していただきたい点を幾つか。火の用心。ゴミの始末(生ゴミ以外は持ち帰り)。冷蔵庫に食品を残しておかない事。

リレー通信

ターニングポイント 芳賀 二三雄



私が森林塾の存在を知ったのは、一昨年の11月に農文協から出版された「田園就職」という現代農業特集号の記事を見たのが初めてでした。当時は、定年後に田舎暮らしをしてみたいと、色々な本や雑誌を読みあさっていたのですが、その中のひとつとして、島崎先生の「山造り承ります」という記事が目にとまりました。そのときは、これが

ら5年、10年あるいは定年後の田舎暮らしを準備していくための、いくつかの興味を持った事例の中のひとつに過ぎなかったのです。

そうこうするうちに、昨年の7月になって突如として早期退職の話が出てきました。しかも募集の締め切りは8月末というものでした。

この話をきっかけにして、それまで漠然と考えていた田舎暮らしを、この際具体的に考えてみようかと思いはじめました。そこでつれ合いにも相談をしてみたところ、確かに実際にやれるとしたら、今しかないのかもしれないという応えが返ってきました。しかも、今やらないと後で後悔するかもしれない等と背中を押すようなことまで言い出します。

そうは言っても、50年近い年月を都会で暮らし、一度も首都圏を離れたことのない私たち夫婦にとっては、田舎暮らしは雲をつかむような話でしかありませんでした。

都会暮らしと30年近くかわたるサラリーマン生活の中で、二人の子供たちも既に成人した私たち夫婦は、いつの間からか2ヶ月に一度のペースで、一泊か二泊くらいの小旅行を繰り返すようになっていました。

考えて見れば、2ヶ月に一度というのは、かなりの頻度ではないかと思うのですが、振り返って見ると、何か自分たちに不足しているものを必死で補おうとしているような、あるいは失ったものを取り返そうとしているような、そんな旅行の数々だったので、無いかと思っています。

ちょうど昨年の7月半ば頃にも、下呂温泉から郡上八幡を経て、飛騨高山を巡る旅行を計画していました。旅行に出かける間際になって、先の田園就職という雑誌をポストンバッグに詰め込みました。この旅行では、茅野まで電車で行って、そこから駅レンタカーを借りて下呂温泉へと向かうことにしていた訳ですが、途中森林塾(島崎先生の山小屋)へ寄ってみようかと急遽思い立ち、とにかく伊那市まで行ってみて、雑誌に載っている森林塾の連絡先に

電話を入れてみようということになりました。

ここでひとつ疑問が湧くかもしれません。それは、何故茅野からレンタカーなのかというのですが、理由は簡単で以前にも茅野で駅レンタカーを借りたことがあるのと、このあたりからドライブするのが楽しそうだからという極単純な理由からです。

こうすれば、帰りは上高地の方を回って茅野に戻ることにになり、何となくグルッと一周するような感じがして合理的(?)だということもありました。するとこれは偶然なのですが、伊那市というのは茅野から下呂温泉に向かう途中にあるということになった訳です。もちろん、と言ったら伊那の方々に怒られるかもしれませんが、始めは諏訪湖を経て、塩尻から中仙道を辿り、木曾を通って下呂へと向かうつもりでいました。

つまり田舎暮らしを考えるために、経路を少し変更したと言つことになりました。あいにくこの日は早川さんは山に入ってしまったので連絡がつかず、やはり事前に連絡をしておかないと無理な話かと諦めかけたところ、電話を應對されたKOAの女性の方が早川さんのケイタイの番号を教えてくださいました。途中何度



芳賀さんの愛するアマゴ

もケイタイへの連絡を試みましたがつながらず、下呂温泉の旅館についてから気を取り直して電話をすると、ようやく連絡がつかれました。

一度話をしたいので、土曜日にそちらへ伺いたいけれども、都合はいかがですかとぶしつけに言つと、その日は塾の日で山小屋近くの山林に入っているけれども、現場に来てもらえば会うことはできるといふことになり、一体どんな話をするのかも良くわからないままに訪問することになりました。

こうして森林塾との出会いは突如としてやって来たのです。結局この日の話で解ったことは、山仕事で暮らしていくのは難しいということでしたが、とりあえず7月下旬の森林塾Bコースに参加することを予約して帰路に就きました。だいぶくどくと出会い



「山造り承ります」の本の注文、ナタノコの注文。いずれも森林塾では必要と思います。

の顛末を書いてみました。これがターニングポイントとなって、今こうして南箕輪のアパートの一室でこれを書いていきます。今年は晴れて森林塾のAコースに参加できることになりました。聞けば申し込みが殺到している、世の中の人々の求めているものが何かを、改めて考えさせられます。森林塾との出会いの中で、わずか一年足らずの間に、田舎暮らしが現実のものになるうとしていきます。現在、これも森林塾を通じて知り合った有賀製材さんにお願ひして長谷村に木の家作りを始めています。10月頃、きのこの季節には長谷村に移り住むことができるのではないかと思います。

完成する頃には、また報告が出来たらと思っておりますが、是非遊びに来て下さい。教えられることばかり多いのですが、周辺の溪流ポイントは、多少お教えできるかもしれません。

リレー通信

私はいったい何者だ 池野谷 將之



私は昨年の5月に会社を辞めた。時に55歳であった。現在もブー太郎をしている。何故会社を辞めたのか、一年近く経った今はよくわからなくなっている。会社を辞める半年以上前から会社に行くのがいやになった。その時には理由ははっきりしていたのだが、今ではその理由が本当に正しかったのか少し揺らいている。

会社を辞めてからは毎日か日曜日、サンデー毎日だ。不謹慎な言い方だが、4週に1度だけ八ローワークへ行くのが唯一の仕事となった。1日24時間すべてが何者にも拘束されない自分の時間となった。しばらくは気ままに過ごそうと決めていたので当初はルンルン気分だった。次はこんなことをやってみようと漠然と考えていたことがあったので、すぐに準備にも取りかかった。それが終わった頃には夏の盛りを過ぎていた。このころから自分の気持ちに変化がでてきた。だから今でもそこで止まったままでいる。その後も色々持ちが動く。この変化は「ことでは言い表せない。しっかりとした次の当てもなく会社を辞めた人間の誰も通る道程なのかもしれない。この辺から、「私はいったい何者だ」が始まった。だからといって今でもそうだが、それ程深刻になれな

いから始末が悪い。もともと私は極楽とんぼなのだ。昔似たようなことがあった。高校を卒業して、勉強不足で浪人した。親にねだつて、東京の予備校に入り、新宿の大久保に下宿した。二浪はいけないう浪はカツコイイと思っていたから、毎日が楽しかった。ゆっくりで良いのだ。暫くして下宿の家のすぐ近くに私立の薬科大があることがわかった。当時は私立の薬科大は割合簡単に入れる時代だったので、ここなら多分私でも入れるだろうと単純に決めて、予備校に通うのもやめた。そして入学できた。ところが動機が不純だったせいか、2年になって間もない頃、これで良いのかと迷い始めた。恐らく初めての「私はいったい何者だ」だった。しかし例によつていつのまにかそんなことは忘れて、3年になるかならない頃、何気なく立ち寄った学生課でたまたま手に取った会社案内に、社長が曰く、「いやしくも我が社は他社の物まねは絶対にしない云々」という言葉が載っていた。ミー・ツー医薬品は作らないということだった。それだけのことでその会社に入ることを決めていた。やっぱり私は極楽とんぼなのだ。違う、私は能天気なのだ。入った会社は楽しかった。極楽とんぼの逆鱗に触れること

も、羽が取れて唐辛子になることもなかったのだろう。それが子会社に転籍して1年たらずで、「私はいったい何者だ」になってしまったのだ。子会社の設立という、なんでも有りの、何とも楽しい仕事のはずだったのに。そうだ私は我が侷なのだ。そして会社を辞めた。極楽とんぼ、いや能天気の本領発揮だ。そして今また「私はいったい何者なのだ」なのだ。

昨年当紙リレー通信に、図書館の一冊の本から「これだツ」とヒラメキ、今の仕事を選んだ...という女性のお話が載っていた。大変印象深く、エールを送りながら、楽しく読ませていただいた。今も、毎日お年寄りの方々とのお話を楽しんでいることが容易に想像される。こういう出会いはめつたに有るものではないこと。うらやましい。

仕事にしても何にしても、いずれ私にもこんな出会いがあることでしょう。夢見れば叶うというから。

こんな私は昨年、秋のBコースに参加させていだきましたが、そこには、会社を辞めたばかりという人や、辞める事を意識している人が思いもよらずたくさん居られました。また若い人達

のこだわりのない、まじめな考え方に嬉しい驚きも感じました。そんなことを考えていたら、こんな自己紹介になりました。今年も熱き血が燃え、理想高き芸達者な方々が集つのでしょうか。楽しみです。あのときのチェインソーの音と振動にシビレ、今年もAコースに挑戦します。どうぞよろしくお願い致します。

立ち寄り情報

「エーデルワイス」(駒ヶ根大沼湖畔・YHと国民宿舎の向かい) 森林塾の大先輩、池田千草さんの店。手作りのテールブルで手作りのケーキを南アルプスを眺めながら頂けます。のんびり過ごせますよ。

塾の後山小屋に泊して駒ヶ根観光と組み合わせるとは如何? 土日は10時~17時。(平日はキーキ教室もあるので要確認)(OLIVE三輪)

コラム

22日はちょうど伊那は桜が見頃でしたが、皆様の目に留まりましたでしょうか? 高遠など桜の名所は確かに見ごたえがありますが、家の周りの景色もなかなかです。畑の中や山裾に咲く桜と梅のピンクが、転々と濃淡様々に散りばめられて、そしてアルプスの稜線の白、空の青、川筋の柳の若葉の淡い緑!そこに梅の香りとウグイスの声が聞こえて、これ以上の春はないとい



高遠城址のコヒガンザクラ

おわりに

いよいよ平成12年度が始まりました。ああ、またこの通信つくりを追われるのかと思うと少し気が重いのですが、そんなことを吹き飛ばす春と、来ていただいた皆さんの顔。「みんないい顔してるねえ、さすがだねえ」 たまたま自己紹介時の顔写真を見たある博士がおっしゃいました。(早)

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)

